

## 留学生のニーズとレベルに合わせた日本語教材の開発（その3）

Development of Japanese Teaching Materials According  
to the Needs and Levels of International Students (3)

田中三千彦・山口隆介・那須由美子\*

Tanaka Michihiko, Yamaguchi Ryusuke, Nasu Yumiko

### 要 約

一昨年度から、本学に入学してくる留学生を対象とし、その日本語能力の実情に合わせて日本語力アップを図るとともに、留学生生活をスムーズに進めるために役立つ教材の開発を目指してきた。これまでに、在学生からのヒアリングにより海外における日本語教育の実情、来日当初に困ったことなどを調査し、それを生かした教材の開発を目指しすでにいくつかの教材を開発、蓄積してきた。<sup>1), 2)</sup>

本年度はそれに引き続き、非漢字圏出身者の日本語教育に関する配慮、学生参加型の教材開発の試み、及び実際の授業の教材に使われる語彙などについて研究した結果を報告する。

**Key Words** : 漢字 非漢字圏出身者 学生参加型 語彙の頻度の決定要因

### 1. はじめに

本学は留学生教育について9年にわたる経験を重ねてきたが、より充実した専門教育を施すには、その前提として、入学初期の日本語教育を強化することの必要性を痛感してきた。そこで、これまでの反省と留学生指導全般の経験を生かし、また、本学留学生の実態に即し、同時に留学生のニーズを反映した日本語指導教材を開発することを目標に一昨年度より独自の教材開発に取りかかった。

これまでの成果は既報に取りまとめたが<sup>1), 2)</sup>、本年度は入学生の構成に大きな変化が生じ、教材開発にも従来と違った観点が必要となってきた。すな

\*聖泉大学 事務部

わち、昨年度までは留学生のすべてが中国人であったのが、今年度はモンゴル、ベトナム、スリランカなどの非漢字圏の国からの入学生を迎えたことである。このため、授業の進め方、教材開発にも従来とは異なった配慮が必要になった。

そこで、本年度は、前半部にあたる2.、3. では非漢字圏出身者の日本語教育に関する配慮について、後半部にあたる4. では教材で実際に使われる語彙についての検討結果を報告する。

具体的には2. および3. は田中三千彦が、4. は山口隆介および那須由美子が原稿を起こし、総合的に討論して完成させた。

## 2. 非漢字圏出身者の日本語教育について

過去8年間、本学に入学してくる留学生が全員中国出身で、中国で2年間程度受けた日本語教育を引き継ぐ形で教材を準備してきた。ところが、本年度は従来と同じ中国出身の入学生に加えて非漢字圏出身者が加わったことにより、教材の選択、作成や授業の進め方に新たな工夫が必要となった。

該当する入学生は3名おり、出身地はモンゴル、ベトナム、スリランカである。予備調査では日常会話においては中国出身者とあまり変わらないものの、漢字の読み書きについては数十字程度の知識しかないこと、中国出身者には抵抗の少ない漢語系の語彙が極めて貧弱であることが判明した。入学生の目的が日本語で行われる大学の専門教育を受けることである以上、ここは乗り越える必要があり、対応を考え以下の2点を実行に移した。

1. 漢字そのものについては、1週間に20字ずつ、一年間で1000字を習得する目標を与え、最初の15週間は毎週テスト問題を作成し学習をフォローした。教科書としては、徳弘康代編著、「よく使う順漢字2000字」を使用し、使用頻度の高い順に学習していく方法を取った。
2. その他の教材についてはほぼすべての漢字に振り仮名を打ち、耳から入る音と、眼で見るテキストが一致するように配慮することにした。新しく作成するものだけではなく、過去に作成した資料についてもルビを入れた

ので、かなり面倒な作業であったが手間隙かけて毎回の授業に対応して資料を作成した。

### 3. 学生参加型の教材開発の試み

昨年度、中国人の日本語学習者および日本人の中国語学習者を対象とした教材の作成に取り掛かったことを報告した<sup>2)</sup>。そこでは、特定の漢字に対して、その漢字を含む熟語が中国語にも日本語にも存在し、その意味や使われ方も似ていて、発音だけが異なる語彙を探し出し、中国語の発音と日本語の読みを併記し、併せて、その漢字の訓読みも表記することにより、日本語および中国語の学習を効率的に進めることを狙いとした。

そこでは、1つの文字につき、下記のような項目を1行に配置し、1ページに30文字ずつ収録するフォーマットを採用した。「営」と言う字を例にとると次のようになる。

文字：営

音読みする語彙：営業

訓読みする語彙：営む

中国語発音：Ying2ye4

音読み：えいぎょう

訓読み：いとなむ

この作業は既報<sup>2)</sup>で報じたとおり、用語やピンインのチェックのため、中国人学生の協力を得ていたが、学生たちとの対話の中で、ここで取り上げた用語に例文をつけてはどうかと言う考えが浮かび上がった。例文については第1段階として学生数人の小グループで数頁ずつ分担して作成し、それを教員も加わったゼミ形式で推敲し、一語一語決定していく。できた例文は中国語に翻訳して併記すれば、和文中訳、中文和訳の問題集としても機能することになる。さらに例文は音読して録音すれば、日本語および中国語の発音および音読の練習にも役立つことが可能になる。

現在、数ページの見本を作ってみた段階であるが、試作品を見ると、授業

などで使えるほか、自習用の教材としても非常に有効であると考えられた。作業に協力してくれた学生も、面白いし勉強になると喜んでくれたので、この構想を「学生が作った日本語と中国語の教科書」として完成させたいと考えるようになった。

留学生の中には将来母国で日本語の教師になりたいと言う希望の学生が複数おり、日本人の学生の中にもボランティアとして外国人に日本語を教えたいと言う学生がいるので、これらの学生および趣旨に賛成の教員数名が加わり、「日本語教育研究会」と言う組織を作って毎週一回集まって活動するという勉強会をスタートさせた。学生は年度が替わればある程度入れ替わるのは止むを得ないが、これを乗り越えて納得のいく教材の完成にこぎつけたいものと思っている。

#### 4. 教材で実際に使われる語彙の調査

本節は、大学の授業で現実に使われる語彙の調査である。第1報、第2報とは教員の発話する語彙を調査したが、今回は文字資料として学生に渡される教材に使用されている語彙を調査する。

今回、教材を調査したのは、本学の情報システム論(特)で、学生に配布されたプリント資料である。この授業は留学生と日本人学生が受講している。コンピューターの使用法を教える科目であるので、コンピュータ関係の語彙が多い。「パソコン」「ハードウェア」「ソフトウェア」「キーボード」「マウス」「メモリ」「ハードディスク」「CPU」「ディスプレイ」「プリンタ」という語彙がパソコンの概要を説明するプリントに登場する。またアプリケーションソフトなどの語彙も、パソコンを扱う上では基本的な語彙である。また機能に関連する語彙も「入力」「記憶」「演算」「制御」「出力」と「第1章」にあたるプリントで登場する。そして、プリントで語彙のまとめに登場するのが「コンピュータ」「ハード」「ソフト」「基本ソフト」「応用ソフト」「OS」などであるが、第2報での調査で、同じ授業で教員の発話について聞き取り調査を行なった際に書きとめた語彙と比較すると、ほとんど重ならないことが分かる。

第2報で取り上げた語彙を以下に挙げる。

「フォルダ」「ファイル」「入力」「スラッシュ」「D14 (ディーのじゅうよん) をクリック」「ツールバー」「パーセントスタイル」「F4 (エフよん) キーを押すと番地が固定」「ウィンドウ」「ダブルクリック」「〇〇関数」「関数を呼び出す」「ウィンドウを閉じる」「ヘッダ」「フッタ」「オブジェクト」「串刺し」「構成比」「各種集計」「ダウンロード」「オート SUM (サム)」「範囲を選ぶ」「見出しを固定する」「タイトル行」<sup>3)</sup>

先程提示した語彙は基礎語彙であるから当然聞こえていることが想像されるのだが、聞いている人間の意識のためか本当の基礎語彙は当たり前のこととして聞き落としていることが危惧された。

しかしながら、上にあげた語彙を調査した回と同じ回の授業で配付されたプリントを手に入れることができたので、そちらからも語彙を抜き出して確かめることにした。第2報で取り上げた語彙の中に「串刺し」という言葉があることから分かるように、串刺し集計を学習する回だが、こちらのプリントにある語彙を以下に挙げる。

「オート SUM」「ダブルクリック」「Download」「構成比」「範囲を黄色に塗りつぶす」（「範囲を選ぶ」と重なる）「セル C5 をクリック」（「D14 (ディーのじゅうよん) をクリック」と重なる）「ヘッダー」「フッター」

すなわち第2報で取り上げた語彙と重なる部分が出てくる。そして、授業の第1回にあたるプリントで登場する語彙は以下の通りである。

「コンピュータ」「ハード」「ソフト」「基本ソフト」「応用ソフト」「OS」「パソコン」「ハードウェア」「ソフトウェア」「キーボード」「マウス」「メモリ」「ハードディスク」「CPU」「ディスプレイ」「プリンタ」

これらの語彙と第2報で取り上げた語彙およびプリントの串刺し集計の回に登場する語彙は今度はほとんど重ならない。

つまり基礎的な学習語彙は、作業指示プリントなどには、作業が進むとほとんど表れないということが予測できる。

逆の予想をしてみよう。この授業はエクセルの授業であるが、エクセルを使う上で基礎語でありしかも作業上頻出する語彙を予測してみた。「シート」「ワークシート」という語が頻出するように思えたので、当該回のプリントに何回出てくるか数えてみた。その際シートタブ、シート見出しなどの表現はシートに数えた。「シート」が13回、「ワークシート」が6回である。しかし同じプリントの中でも登場箇所に偏りがあり、「ワークシートの操作」という作業を指示する箇所に「シート」が12回、「ワークシート」はその箇所だけに集中している。このことはすなわち、他の作業の時にはエクセルの作業であっても「シート」「ワークシート」という言葉は、このプリントではほとんど、あるいは全く出てこないということが分かる。当たり前のことと言えば当たり前のことだが、授業の中で指示される作業ごとの語彙の頻度を支配するのはエクセルなどのそれを使えるようになるために授業が行なわれる授業目標ではなくて、実際に何をするかという授業内容であるということを示唆する結果が得られた。今後は、母数を増やすためにさまざまな授業で使われている配付物の調査を行なうべきであろうと考える。

## 5. 最後に

以上が、本学留学生の実情に応じた日本語教材について第3回の報告である。2. 3. については学生の協力を得ての教材開発ないし開発のための調査が、行なえた。4. では日本人と留学生が受けている科目の教材に使われている語彙の頻度の実際について示唆を得た。今後は、これまでの調査を踏まえて方向を定め、留学生の効率よい学習を助ける教材の開発のための調査を行なうことを考えている。

### 参考文献

1. 田中, 山口, 那須「留学生のニーズとレベルに合わせた日本語教材の開発」(『聖泉論叢』第15号(2007)所収)
2. 田中, 山口, 那須「留学生のニーズとレベルに合わせた日本語教材の開発(その2)」(『聖泉論叢』第16号(2008)所収)

### 「註」

- 1) 田中, 山口, 那須「留学生のニーズとレベルに合わせた日本語教材の開発」(『聖泉論叢』第15号(2007)所収) 参照。
- 2) 田中, 山口, 那須「留学生のニーズとレベルに合わせた日本語教材の開発(その2)」(『聖泉論叢』第16号(2008)所収) 参照。
- 3) 田中, 山口, 那須「留学生のニーズとレベルに合わせた日本語教材の開発(その2)」(『聖泉論叢』第16号(2008)所収) 参照。第2章「教室日本語—現在進行中の作業の中間報告として—」参照。